（1）　明治20年創刊　第35655号（第3種郵便物認可）　（日刊）

上毛新聞
住所（〒371）前橋市古市町1－50－21
上毛新聞社
電話（0272）51－4311（代表）
前橋（6時以降）・休日相談
販売1－4343・4344
事業・総務52－3548（直通）51－4347
編集52－3548（直通）51－4363
上毛新聞社　1994

いらっしゃい新婚さん

過疎化対策で中里村

旅行費に50万支給

今月から制度改正　村営住宅は半額補助

過疎化に悩む多野郡中里村は、平成元年から「結婚祝、五歳以上の定住を約束するカップルには新婚旅行の交通費として最高四十五万円を支給する」という全国的にも二番目の制度を実施している。一向に効果が上がらないため、一日から限度額を五十万円に引き上げた。さらに、村営住宅の入居者には月額二万円を補助する事業を新たに加えた。県内の山間地の町村では若者の定住に向け村に活気を取り戻そうと、さまざまな施策を展開しているが、依然、流出に歯止めはかからず、山村を支える住民たちにとって厳しい状況が続いている。

同村の人口は先月二十四日現在、千百五十人で、県内七十市町村の中で最も少ない。新婚者への交通費補助制度をスタートさせた元年四月（千九百九十一人）、さらに五年度（平成五年）によると、県内の十五歳未満町村のうち、定住促進策としての助成制度を実施しているのは興保根、勢多、東、倉渕、小野上、万場、中里、上野、南牧、吾妻、利根、川場の十一町村。このうち、こうしたアイデアを出尽くした感があり、中里村と効果はいまひとつ、現金助成という一時的な方策の限界とから、これに代わる単発的な抜本的対策が必要となっている。東村では定住者の給

限界近づく現金助成

県地域振興課の調べ（平成元年度）によると、県内の十五歳未満町村のうち、定住促進策としての助成制度を実施しているのは興保根、勢多、東、倉渕、小野上、万場、中里、上野、南牧、吾妻、利根、川場の十一町村。このうち、こうしたアイデアを出尽くした感があり、中里村と効果はいまひとつ、現金助成という一時的な方策の限界とから、これに代わる単発的な抜本的対策が必要となっている。東村では定住者の給

減少した。六十五歳以上のお年寄りは四百二十一人で、高齢化率は三六・六％と県内一、新婚者への交通費補助制度を実施させた元年四月（千九百九十一人）、さらに五年度（平成五年）によると、県内の十五歳未満町村のうち、定住促進策としての助成制度を実施しているのは興保根、勢多、東、倉渕、小野上、万場、中里、上野、南牧、吾妻、利根、川場の十一町村。このうち、こうしたアイデアを出尽くした感があり、中里村と効果はいまひとつ、現金助成という一時的な方策の限界とから、これに代わる単発的な抜本的対策が必要となっている。東村では定住者の給

過疎化に悩む多野郡中里村は、平成元年から「結婚祝、五歳以上の定住を約束するカップルには新婚旅行の交通費として最高四十五万円を支給する」という全国的にも二番目の制度を実施している。一向に効果が上がらないため、一日から限度額を五十万円に引き上げた。さらに、村営住宅の入居者には月額二万円を補助する事業を新たに加えた。県内の山間地の町村では若者の定住に向け村に活気を取り戻そうと、さまざまな施策を展開しているが、依然、流出に歯止めはかからず、山村を支える住民たちにとって厳しい状況が続いている。

状況だ。山あいで企業誘致が出来ないこともあって、働き口を求めて村を去る若者たちは多く、子供の数は減る一方だ。

旅行の補助制度は、ふるさと金を利用。これまで利用者は